

內外新報

廿二號

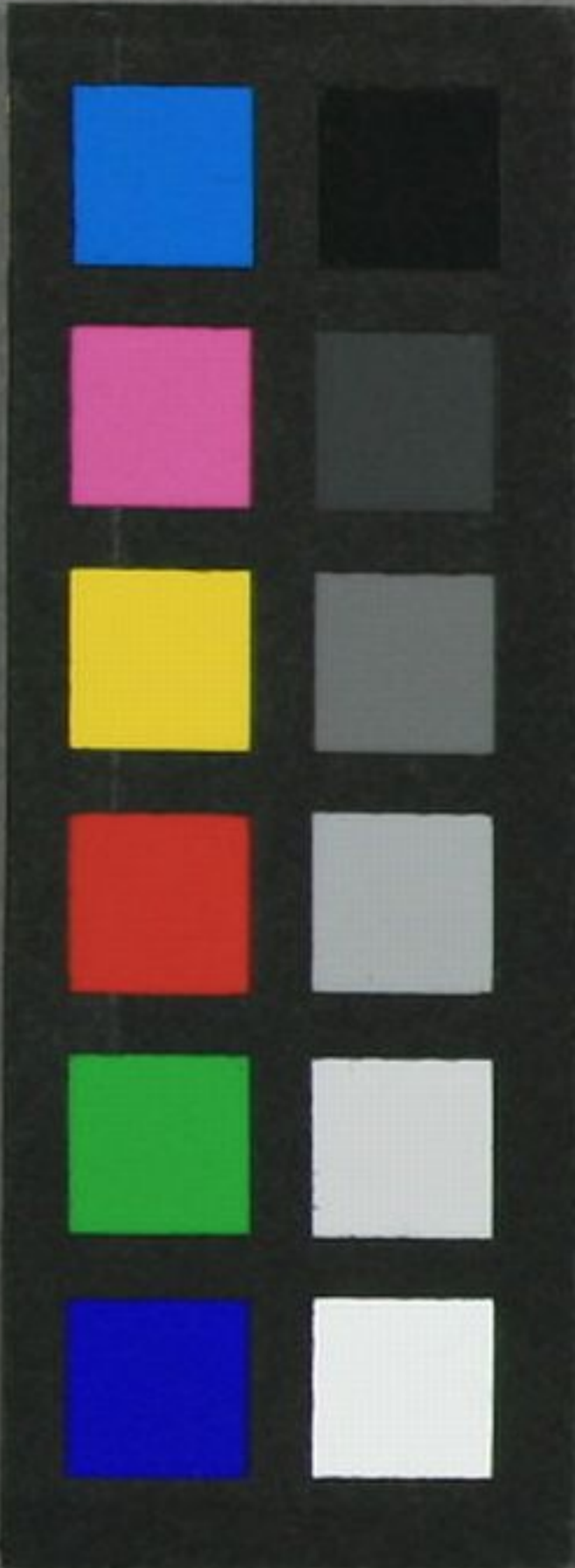


西垣文庫

文庫 10

7352

6



特 文庫10
7352
6

西垣文庫

内外新報第廿二號

慶應四年閏四月廿五日



信州善光寺よりの来状

四月十七八日の以越後より田原荒井宿へ逗留の晩迄兵
越後路より信州松本を通りて付宿く人馬往立無滞
出し尤も御至壘縮の儀ハ亦百人程用意致し是ハ松
本獨有之版山願松代所宿役人ハ存し孰ハ主へ侍出
申あり幸多作より志回家に直接し其相親ハ然る不
廿一二日以脱走無版山楨下へ繰上り人馬往立於
戰事了後旨法判り相成本多家を解き同意致し竊又松

代々援兵を相付以飯山城下脇より小隈川原門落合に
 門有く渡取不仕脱走方より引揚以至徑去回勢出強者
 門を隔く安回と中雨へ陣死女八日明云時色分大砲小
 銃打掛け戦事相成脱走方大砲を以て遂に敵戦し飯山
 城門より引退城は潰し以て城中述以て本多勢一時に城
 門を閉き砲發より及び以故脱走兵悉く敗れ城下市中へ
 放火し行進への逃去に中其間去回勢取を死度し連
 板城下へ到る浪佐ども面を以て度相化し同城を討隊長
 縲之以お成り脱走方死傷又十人餘板代方即死走人手
 負ありし中板代上回尾所等し人救退し搦出し以て降

去回勢一手あり戦事勝利し中引續き城後路へ入救受
 向残佐退討右諸藩より回へ浪佐の内通行を致し度掛
 合に相成り去回侯為感は終に執板代所より結し外敵
 軍ありて以て関門を建固め教し相攻め以て中

○志州為羽藩屋書

兼之涉屋中より通る平右衛門紋涉不審之節有く入系
 紅毛止し執放系地は終出在りし慎居を以て是處
 或は存為歎歎去月廿八日在表出之同廿八日同根白
 到番後怯仕居し雪門晦日入系紅毛免し以て涉達し執石
 川宗十郎板代通其省く依之為月朝日同不出去る六

日京番仕の陣中致し世降止屋中といひ

四月十七日

猪垣平右衛門家来

小菅根平左衛門

○補遺

安房家の士水戸街にあり大君の御旗を思ふに打
上戸御代の御駕籠あり御旗を上げ黒信御旗付の御
相織をなす御腕籠を遊御旗を本も無く其在極を見
せし御旗を流さざるを祈し御旗へ杖掛体し者制止を
相懸ひのこり御旗の中あり御旗を懸ひ者祈し去行
身も平伏をいよし

○四月十一日出山取上りの末状

度内より繰出しし人数

白石慈恩寺僧

惣大将 高二千八百石

酒井兵助

軍大将 高二千石

石原藤助

軍師

加谷野清助

先陣

中村清藏

天童江口

中村次郎

新徴組五人附録

佐沢浩

堀 平右衛門

石井重助

新徴經又百人附隊

山形に使者

白井庄助

無 仁九郎

熱勢凡三人

右の人殺亡指越志津本道と意恩方佐沢右とく取
陣五里白井仁田儀越村邊川岸、日の丸の旗揮立大

砲の音曰く烈しく相闘也然る亦天童方より川巻場
に出張互ひに白服合ニラシアヒ一古田徑打合ニラシアヒ双方二人宛
人は傷付い中かくく山形より同二水手操出し
長傍より遠摩村へ陣五里掘金窟と一手に成り相圍
め居る元々庄内へ古田意致し以故とも官軍と對し
くハ其意を見せ不中と云く固めのくはく日を送り依
て官軍は居し以極不とも相見へ古田ありく双方意
聚り以中以く庄内方より空砲打とく以古山形勢大
に驚き俄又玉止め砲發し以故と付庄内方立腹
以及び大小砲打かけ遂に戦事と相成り山形勢士分

武人討死柳倉是怪人即死外又三人討死是庄内以
 此武三人討死者以中月刻古河の落合と中野以之
 頼剛庄内守武百人少く三人討死山形勢又人討死
 是敗軍引死中以中月刻庄内勢天童に押寄せ城の裏
 手より大砲打掛け以故一藩必死と覚悟を極め切出
 以頼剛殿の方火の手熾ん^{サカ}と相見え以一は死^{タマ}すは打
 合減下家中焼立思ふ候又頼以中庄内勢焼逐以之
 老の森百町を煉拂に相成以天童家老右田大炊主後
 又六人少く敵兵七人討死以は在衆寡敵しがく下
 先重幸又引上以酒井方之捨人程戦死織田方七八人

即死者先ハ勝利とP事上は庄内は但蒸成しち下以
 以故皆之我死以多し以中庄内方中人殺と集め長沢
 陣を引死中以は保山形へ攻寄了中様子又討仙臺
 へ官軍より退く事打を以之退進し及び日六日荒物
 勢八十人程笠谷峠と奇襲し山形光助も人着陣為又
 仙臺勢七日岩通あく日六日十人程引く又分退く官
 軍引着以相成日夜下桑所達摩古村迄之老助奪よ是
 出張宿之洞所町に相固め庄内方へ打入以様子以
 是庄内より大砲の音又引死お少へ産が内村高聖
 村天童を篠庭村に火の手揚る以未だ勝敗

之相分不十以

○最沢宿より中來更以風岡書

當月十三日戸塚宿に里程を系所回と十所迄と八五
子不人隊既の上し走人切腹外に之人も多分同部と
中事右に去る九日日光表より逃帰更以若以付世分
脱走隊長より切腹は十付以中以津彦以

